日本語と韓国語の言いわけ表現の対照研究

――依頼談話の場合――

厳　　廷　　美（オム・ジョンミ）

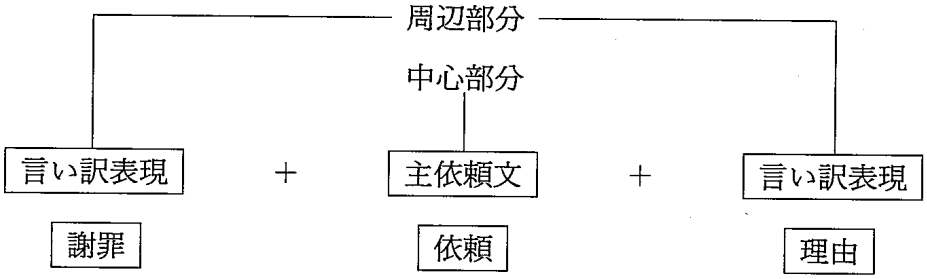
1．はじめに

日常生活において，人は円滑なコミュニケーションのために，言語的にも非言語的にもさまざまな工夫をしている。とりわけ依頼の場面では，自分のために相手に行動を起こさせるという性質上，相手に対する押しつけを少なくし，自分の要求を通すために，相手に失礼にならないように気配りをするものである。この気配りのストラテジーの一つに「丁寧さ (politeness)」があると考えられる。また，丁寧な言語行動のためには様々な言語的手段が用いられるが，その一つとして言いわけ表現は重要な役割を果たしていると言えよう。そこで，本研究では，日本語と韓国語の依頼談話における言いわけ表現の使用における日本語と韓国語の特徴について，実証的に比較検討するものである。特に，日本語と韓国語は文法や語彙レベルにおける類似性が強調されてきただけに，それぞれの言語の学習者は言語行動のレベルにおける言語使用にまで，母語の干渉が起こり，戸惑いが生じることがよくある。具体的な働きかけの仕方は言語によって異なり，異文化摩擦の原因ともなりうる。言語行動のレベルにおける日韓対照研究は日本語教育及び韓国語教育の分野で至急に要求される研究領域の一つである。

2．依頼談話における言いわけ表現

依頼談話は図１のように，大きく分けて依頼を直接伝える中心部分と，その

図1　依頼談話の構造[1)]



前後の謝罪・理由・約束などの周辺部分の2つに分かれており，言いわけ表現とは主依頼文の前後にくる理由，謝罪などの表現のことである。

依頼談話において言いわけ表現を言うことは，聞き手にとっては心理的なクッションとなって，押し付けや負担を少なくする要求緩和ストラテジーとして機能していると考えられる。Brown & Levinson (1978)[2)] は言いわけ表現がポライトネス原則の重要な要素であると述べている。また，杉戸(1983)[3)] も日本語の言いわけ表現を，言語行動の要素についての＜選択・評価・判断＞であるという意味で「注釈行動」と呼び，待遇行動の際に気配りの度合が大きいほど注釈の必要性を感じると述べている。言いわけ表現は言語行動の丁寧度を考える際に重要な要素であると言わねばならない。

3．本調査の概要

日本語と韓国語の依頼場面における言いわけ表現を比較対照するために，以下のような調査を行った。

3.1.　調査対象

日韓とも大学生を対象にした。性別以外の条件を揃えた日韓男女それぞれ50名ずつ，合計200名。年齢は18歳から30歳までで，所属校は日本側は東京近辺の9大学，韓国側はソウル近辺の10大学である。出身地は日韓とも主に首都

圏中心で，共通語話者に限った。

3.2. 調査方法

依頼表現を使うような五つの場面を与え，実際にどのように言うのかをアンケート方式による会話完成テスト (Discourse Completion Test) により答えてもらった。資料とした総談話数は，被験者(50 名)×性別(2)×場面(4)×国(2)，の 800 談話である。その際の依頼表現を言う話し相手は，同じ専攻の同年齢のクラスメートで，学校で会えば軽い挨拶を交わすくらいの，それ程親しくない人[4] を想定してもらった。

場面設定は絶対的負担度の違うと考えられる 4 場面[5] である。すなわち，[場面 1] 教室の床に落ちているボールペンを拾ってもらう，[場面 2] 学校の教室で窓際に座っているクラスメートに窓を開けてもらう，[場面 3]共同研究の相談のために先生のところへ行く約束を，私用で行けなくなったので，自分の代わりに行ってもらう，[場面 4]学科セミナー旅行費を払うためにお金を貸してもらう（日：5 千円，韓：2 万ウォン)，の 4 場面である。

また，同じ状況で同じ依頼をしても，文化により話者の感じる負担度は往々にして異なると予想されるので，このような異文化間における依頼の内容に対する相対的な負担度を調査するために，調査紙に負担の度合の順序を答えてもらった。つまり，与えられた四つの場面の中で，相対的に考えた時に，どの場面が最も依頼しにくく，また，依頼しやすいのか，依頼しやすい順に場面の番号を記入するようにした。

3.3. 分析項目

日韓の言いわけ表現における特徴を比較するために，上記の調査方法によって得られた日韓計 800 の談話資料にあらわれた言いわけ表現を，発話機能の観点から分析を行う。この際，主に発話機能による言いわけ表現の種類，性差と言いわけ表現の関係，言いわけ表現の日韓の文化的特徴，依頼の内容と負担度

の関係に焦点をあてて分析する。

4．分析の結果・考察

4.1.　言いわけ表現の種類

本項では，日韓の談話資料にあらわれる言いわけ表現の種類について，その典型的な例を挙げながら説明する。まず，日韓共通にあらわれる言いわけ表現を説明し，その次に日本語と韓国語それぞれの言語だけにあらわれる言いわけ表現について説明する。

［日本語・韓国語に共通にあらわれる言いわけ表現］

①　謝罪

「わるい」，「すみません」，「もうしわけない」

「미안해（ごめんなさい）」，「죄송한데요（申し訳ありませんが）」

などのような謝る表現。

②　理由

＜非個人的理由＞

「都合が悪くなったので」，「急用ができたので」

「볼일이 생겼거든(用事ができたんだけど)」などの当たり障りのない非個人的な理由。

＜個人的な理由＞

（真実）

「その日はBと映画を見に行く約束をしてしまったので(場面3)」

「그 날 사실은 나 영화 보러 가기로 했거든（その日実は私映画見に行くことにしたのよ。）（場面3）」のように真実の個人的理由を述べること。

（嘘）

「法事に出席しなければならないから(場面3)」，「財布をなくしちゃったから(場面4)」，「나 지갑을 떨어뜨렸거든（私財布落としちゃったのね）（場

面3)」など，嘘の理由を述べること。

③ 説明

<客観的状況の説明>

「椅子の下にボールペン落としちゃった(場面1)」

「밑에 볼펜 떨어뜨렸거든.(下にボールペン落としちゃったけど)(場面1)」

などのように，現在起きている客観的状況について述べること。

<個人的状況の説明>

「今お金がないの(場面4)」,「나 지금 거지같은 상태거든(私今乞食のような状態なの)(場面4)」のように，話し手自分自身の個人的状況について述べること。

④ 貢献

「今度，ご馳走するから(場面3)」,「何か埋め合わせするから(場面3)」,「다음에 내가 밥살께(次私がおごるから)(場面3)」などと貢献を誓うような表現。

⑤ 懇願

「たのむ(場面3)」,「一生のおねがいだから(場面3)」,「부탁이다(たのむよ)(場面3)」と積極的に懇願する表現。

⑥ 条件

「もし今日あいてたら(場面3)」,「もってたら(場面4)」,「돈 있으면(お金あれば)(場面4)」と相手の負担を軽くする条件の陳述。

⑦ 約束

「明日かならず返す(場面4)」,「내일 줄 테니까(明日返すから)(場面4)」のように約束事を述べる。

⑧ 意見打診

「あつくありませんか(場面2)」,「덥지 않니(暑くない)(場面2)」のように直接の依頼の前に相手の意見を聞く表現。

⑨ 状況打診

「今お金持ってる(場面4)」,「金曜日あいてる(場面3)」,「돈 좀 있니(お金ある)(場面4)」など,依頼の前に相手の状況をたずねる表現。

⑩ 提案

「窓,開けてくれたら(場面2)」,「대신 가주면 어떻니(代わりに行ってくれたらどう)(場面3)」のように提案をする表現。

⑪ 感謝

「ありがとう」,「고마워(ありがとう)」のような感謝の言葉。

[日本語だけにあらわれる言いわけ表現]

① 自己非難

「私バカだから(場面4)」,「ばかみたい(場面4)」のように自分を非難する表現。

② 同意要求

「いいでしょう?ね?ね?(場面3)」のように相手に同意を要求する表現。

③ 配慮

「先生には電話しておくんで……(場面3)」のように相手のことを配慮して何らかの行動を起こすこと。

[韓国語だけにあらわれる言いわけ表現]

① 説得

「같은 과 친구끼린데(場面3)(おなじクラスの友達同士じゃない)」のように同じ仲間であることを強調し,相手を説得する表現

② 挨拶

「안녕하세요(場面4)(こんにちは)」,「만나서 반갑다(場面4)(会えて嬉しい)」などのような挨拶表現。

③ 撤回

「정 너가 바쁘면 내가 약속을 취소하고 갈께(場面3)(どうしても忙しい

と言うならば，私が他の約束を取り消して行くけど)」のように依頼を撤回する表現。

④ 強調

「B와의 약속은 내게는 너무 중요하거든(場面3)（Bとの約束は私にはとても大事なの)」，他の人との約束の方が非常に大事であると強調する表現。このように言うことは，日本では失礼に捉えられる場合が多いが，韓国では失礼だという印象はあまり与えない。

⑤ 勧誘

「같이 영화 보러 가자(場面3)(いっしょに映画見に行こう)」のように，先生に相談に行くことは二人ともやめて映画に行こうと誘う表現。

4.2. 言いわけ表現と性差

まず，日韓男女別に言いわけ表現の使用頻度を比べてみよう。表1と表2は日韓の言いわけ表現の使用頻度を性差と場面別にまとめたものである。表1及び表2に見るように，日韓両方ともすべての場面において女性の方が男性より言いわけ表現を多用していて，男女の合計の言いわけ表現の使用頻度は，日本側が(男性205回，女性323回)，韓国側が(男性194回，女性 254回)である。日韓両方とも女性の方が男性より多くの言いわけ表現を使用しているが，日韓の使用頻度の男女差は，日本が118回，韓国が60回で，日本の方が韓国より男女差が大きいと言えよう。

次に，日韓の男女別の言いわけ表現の特徴について考察してみよう。まず，日本の場合は，貢献，提案，配慮を除いたすべての言いわけ表現において，女性の使用頻度が高くなっている。最もその差が顕著なのは，謝罪(男51，女89)と説明(男32，女57)である。また，「私はばかだから」[6] といった自分を非難する内容と相手に同意を願う内容の言いわけ表現は女性だけに見られる言いわけ表現である。

一方，韓国の男女の特徴を分析してみると，次のような特徴が見られる。日

表1　場面と性差別に見た言いわけ表現の使用頻度（日本）

	場面1		場面2		場面3		場面4		合　計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
謝　罪	21	36	5	21	13	24	12	8	**51**	**89**
非個人的理由	0	0	0	0	28	27	0	0	**28**	**27**
個人的理由（真実）	4	6	14	5	1	8	23	31	**44**	**53**
（嘘）	0	0	0	0	3	2	0	0	**3**	**2**
小　計	4	6	14	5	34	39	23	31	**75**	**82**
説明（客観的状況）	4	9	0	0	0	0	0	0	**4**	**9**
（個人的状況）	0	0	0	0	11	16	17	32	**28**	**48**
小　計	4	9	0	0	11	16	17	32	**32**	**57**
貢　献	0	0	0	0	2	1	0	0	**2**	**1**
懇　願	0	0	0	0	4	5	0	8	**4**	**13**
条　件	0	0	0	0	1	4	1	9	**2**	**13**
約　束	0	0	0	0	0	2	16	27	**16**	**29**
陳　述	0	0	1	0	4	6	1	2	**6**	**8**
意見打診	0	0	6	8	1	2	0	0	**7**	**10**
状況打診	0	0	0	0	0	4	4	8	**4**	**12**
提　案	0	0	3	0	1	0	0	0	**4**	**0**
感　謝	1	0	0	1	0	0	0	1	**1**	**2**
自己非難	0	0	0	0	0	0	0	3	**0**	**3**
配　慮	0	0	0	0	1	0	0	0	**1**	**0**
同意要求	0	0	0	0	0	4	0	0	**0**	**4**
合　計	**30**	**51**	**29**	**35**	**72**	**108**	**75**	**129**	**205**	**323**

本と同様に，女性の方がより多くの言いわけ表現を使用しているものの，男女の使用する言いわけ表現の内容においては日本とは違いが見られる。日本ではわずかな差ではあるが，男性の使用がより多く見られた貢献と提案が，韓国では女性によってより多く使われていることは日本とは対照的である。男女の使用頻度は貢献が（男9，女13），提案が（男2，女5）である。

このほかに，女性に特徴的に見られる言いわけ表現には，謝罪(男16，女25)，懇願(男6，女15)，状況打診(男10，女21)がある。 感謝，挨拶，勧誘は女性

表 2　場面と性差別に見た言いわけ表現の使用頻度（韓国）

	場面 1		場面 2		場面 3		場面 4		合　計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
謝　罪	1	0	0	1	14	22	1	2	**16**	**25**
非個人的理由	0	0	0	0	33	24	12	7	**45**	**31**
個人的理由（真実）	0	2	11	1	8	14	26	34	**45**	**61**
（嘘）	0	0	0	0	0	2	6	4	**6**	**6**
小　計	0	2	11	11	41	38	44	45	**96**	**96**
説明（客観的状況）	0	3	0	0	0	0	4	1	**4**	**4**
（個人的状況）	0	0	0	0	1	2	0	0	**1**	**2**
小　計	0	3	0	0	1	2	4	1	**5**	**6**
貢　献	0	0	0	0	8	13	1	0	**9**	**13**
懇　願	0	0	1	1	2	13	3	1	**6**	**15**
条　件	0	0	0	3	2	4	6	14	**8**	**21**
約　束	0	0	0	0	1	4	31	30	**32**	**34**
陳　述	0	0	0	0	2	1	0	0	**2**	**1**
意見打診	0	0	1	0	4	5	0	2	**5**	**7**
状況打診	0	0	5	14	0	0	5	7	**10**	**21**
提　案	0	0	0	0	1	1	0	0	**2**	**5**
感　謝	0	0	0	0	0	0	0	1	**0**	**1**
説　得	0	0	0	0	1	0	0	0	**1**	**0**
挨　拶	0	0	0	0	0	1	0	3	**0**	**4**
譲　歩	0	0	0	0	1	2	0	0	**1**	**2**
強　調	0	0	0	0	2	1	0	0	**2**	**1**
勧　誘	0	0	0	0	0	4	0	0	**0**	**4**
合　計	**1**	**5**	**18**	**30**	**80**	**113**	**95**	**105**	**194**	**254**

にしか見られなかったが，これらの言いわけ表現は自分の気持ちを表現したり，相手が同じ行動をしてくれることを期待するようなもので，韓国の女性の積極的な言語行動をあらわしていると言えよう。

このように，日韓の言いわけ表現における男女差を使用頻度と内容の面において分析してみた結果，日本の女性が男性より控え目で消極的な内容の言いわけ表現をより多く使用しているのに対して，韓国の女性は日本とは対照的に積極的な内容の言いわけ表現を多く用いていることが分かった。しかし，使用頻

度においては，同じ依頼の場面であるのにもかかわらず，日韓とも女性の発話により多くの言いわけ表現が見られた。主依頼文の前後に言いわけ表現が多くなれば，それだけ発話が長くなる。日本でも韓国でも，女性がおしゃべりに見える理由の一つはここにあるのかも知れない。

4.3.　依頼の内容と負担度

依頼とは話し手が聞き手に何かをするように頼むことであり，多くの場合は話し手がその益を受け，聞き手は損をする。その負担の度合は依頼の内容が大きいほど増す。例えば，千円より1万円貸してくれるように依頼する内容の方が，単純に考えると依頼する側や依頼される側の負担は十倍大きくなる。これが話し手及び聞き手が感じる絶対的な負担である。

しかし，我々は実際には絶対的な負担をそのまま感じるのではなく，種々の要因により増減された相対的な負担を感じる。その要因には，依頼する側と依頼される側の親密度と地位関係や依頼をする話し手の依頼の必要性や依頼される聞き手の状況など様々なことが考えられるが，何よりも根本的な要因は文化の違いによる差であると言えよう。同じ内容の依頼でも文化により，人々の感じる負担の度合は同一であるとは限らず，異なることも往々にあると予想できる。

それで，ここでは日韓という異文化の間で，同じ依頼の内容に対して，どのような相対的負担を感じるのかを調査結果に基づいて述べたい。まず，表3及び表4でその結果を提示する。

各表の最初の行の番号は話し手（調査対象）の感じる負担の度合の順序を表している。つまり，1は最も負担を感じない，4は最も多く負担を感じる，というように，1＜2＜3＜4の順に負担を重く感じることを意味する。また，表の中の数字は人数である。

表を見てみると，日本の場合は場面1＜場面2＜場面3＜場面4の順に，韓国の場合は場面1＜場面2＜場面4＜場面3の順に負担を重く感じることが分

表3 場面による話し手の感じる負担の度合（日本）

	1		2		3		4	
	男	女	男	女	男	女	男	女
場面1	31	41	11	6	4	0	1	1
場面2	9	7	25	35	4	2	4	1
場面3	3	0	2	5	22	22	9	8
場面4	4	0	1	3	11	14	27	26

表4 場面による話し手の感じる負担の度合（韓国）

	1		2		3		4	
	男	女	男	女	男	女	男	女
場面1	38	38	8	10	1	0	2	2
場面2	7	10	30	32	8	5	1	0
場面3	1	0	3	3	9	7	25	24
場面4	3	0	3	2	18	22	12	13

かる。男女差はあらわれないが，日本と韓国では同じ依頼の内容に対して，負担の度合が異なることが分かる。つまり，頼みやすいと思う場面は日韓とも半数以上の人が場面1（ボールペンを拾ってもらう）•場面2（窓を開けてもらう）であると答えたのに対して，最も依頼の負担を重く感じる場面については，ほぼ半数以上の人が日本は場面4，韓国は場面3であると答えているのである。

日本では，人にお金を借りることを一番負担に思うのに対して，韓国では金銭的依頼より，むしろ相手に自分の代わりに先生に相談に行くように依頼することに対して負担を感じている。このような文化的違いの原因としては，次のようなことが考えられる。韓国では，先生と学生の関係は日本より上下関係がはっきりしていて，学生にとって先生という存在は絶対的権威を持っている。さらに，伝統的に学問を重んじる儒教文化の影響を強く受けている韓国社会[7]では，一般的に大学教授は尊敬され，社会的な地位も非常に高い。この社会的

な風潮も手伝って，相手に自分の代わりに先生に行ってくれるよう頼むことに対して最も負担を感じるのではないかと思われる。これに比べ，お金を借りることはいくら難しいといっても，相手は話し手とは年齢的にも社会的地位の面においても同等の立場にいる同級生なのでさほど負担を感じないのであろう。もちろん，日本でも，基本的には学生と先生の間に序列意識がないとは言えないが，その認識は韓国より強くなく，むしろ他人にお金を借りるような，相手に負債を持つことに対して負担を大きく感じるのではないかと思われる。このように，同じ依頼に対しても文化的コンテクストにより，話し手の感じる負担の度合も相対的である。

4.4.　言いわけ表現の使用と文化的特徴

日本と韓国の言いわけ表現の使用におけるいくつかの文化的特徴について述べたい。表5は日韓の結果を容易く比較できるように表1と表2の合計の結果だけを取り出してまとめたものである。表5から分かるように，日韓で差が顕著にあらわれるのは，謝罪(日140，韓41)，理由(日157，韓国192)，説明(日89，韓11)，貢献(日3，韓22)，約束(日45，韓66)である。日本に多くあらわれる言いわけ表現は謝罪と説明で，一方，韓国に多くあらわれるものは理由，貢献，約束である。特に，貢献は日本では3回しか見られない。つまり，聞き手に詫びたり，また自分の状況について説明したりするような言いわけ表現は日本側に多く見られ，依頼する理由を述べたり，恩返しすることを誓ったり，約束事を述べたりする言いわけ表現は韓国に多く見られる。

この結果は，日本語と英語の依頼遂行に使用される言いわけ表現の特徴を調査した川崎(1990)の研究結果と類似する点が多いことは興味深い。日英共通に理由の表現が多く見られるが，相違点としては，本研究結果と同じように日本では謝罪の表現が多く用いられるのに対して，英語にはあまり謝罪の表現は見られず，その代わりに，約束の表現が多く見られると言う[8]。クロスカルチュラルな視点から，文化を越えてみたとき，英語で謝罪表現はあまり使わず，約束の

表 5　日韓の言いわけ表現の合計の結果

	合計（日本）		合計（日・韓）		合計（韓国）	
	男	女	日	韓	男	女
謝　罪	51	89	**140**	**41**	16	25
理　由	75	82	**157**	**192**	96	96
説　明	32	57	**89**	**11**	5	6
貢　献	2	1	**3**	**22**	9	13
懇　願	4	13	**17**	**21**	6	15
条　件	2	13	**15**	**29**	8	21
約　束	16	29	**45**	**66**	32	34
陳　述	6	8	**14**	**3**	2	1
意見打診	7	10	**17**	**12**	5	7
状況打診	4	12	**16**	**31**	10	21
提　案	4	0	**4**	**7**	2	5
感　謝	1	2	**3**	**1**	0	1
自己非難	0	3	**3**	**0**	0	0
配　慮	1	0	**1**	**0**	0	0
同意要求	0	4	**4**	**0**	0	0
説　得	0	0	**0**	**1**	1	0
挨　拶	0	0	**0**	**4**	0	4
撤　回	0	0	**0**	**3**	1	2
強　調	0	0	**0**	**3**	2	1
勧　誘	0	0	**0**	**4**	0	4
合　計	**205**	**323**	**528**	**448**	**194**	**254**

表現を多く使うことは，韓国語と一致する共通点として注目すべきことであろう。

このような日・韓・英の言いわけ表現の使用における特徴を，Brown and Levinon (1978) のポライトネスのストラテジーに照らして考察してみる。Brown and Levinson は人間が相手とやり取りをする時の行為は，相手の尊敬や面子 (face) を脅かす可能性があるとし，それを FTA (face threatening act) と名づけた。そして FTA を和らげるために使うものがポライトネス (politeness) に応じた言語手段であるとした。つまり，ポライトネスとは円滑なコミュ

ニケーションのために話し手が相手に示す心配りであるということである。このポライトネスのストラテジーに，積極的ポライトネス (positive politeness) と消極的ポライトネス (negative politeness) があるとしている。

積極的ポライトネスとは，相手の面子にかなう言語行動をとる。つまり聞き手の自尊心を満足させ，いい気分にさせるように積極的な配慮で話しかけることである。消極的ポライトネスとは相手の面子を脅かさないような言語行動をとること。つまり，相手の自尊心を傷つけないように配慮した話し方をすることである。

このようなポライトネスの観点から日・韓・英の言いわけ表現を考えると，日本語では消極的ストラテジー (negative strategy) を，韓国語・英語では積極的ストラテジー (positive strategy) をより多く使用していると言えよう。

特に，韓国と比べて日本で謝罪の表現が多く用いられるのは，両国の言語行動における最も大きな文化的特徴であると言えよう。「日本人には，負債の概念が強く，人に負債を持ちたくない自己保存の欲求が強い。つまり，依頼をするということを含めて，日本では人との交わり自体が負担になる度合が強い。そのため，人から依頼されるとそれを断りにくく，聞き手の側の負担が重いばかりではなく，依頼をする話し手の側も，依頼をすること自体をできる限り避けようとするが，依頼をする時には，聞き手への負担を極度に減少させようとする。その一つの方法が相手に詫びることで敬意を払うことだと言えよう。これは感謝の気持ちをあらわす時でさえ詫びの表現を使うことに見られる，いかにも日本人的な控え目な丁寧さと同様なものである。」川成（1993，P 129-130）

しかし，韓国人には，日本人のように，負債の概念が強くなく，昔から人と助け合う“相扶相助”の精神が美徳とされているだけに，人に依頼をすることに対して，それほど負担を感じないばかりか，謝罪しようとも思わない。依頼の場面だけではなく普段の言語行動においても，韓国人にとって謝罪を言うことは，ほんとうに何か詫びなければならない理由がある時である。韓国人にとって，謝罪とは，決まり文句のように軽く習慣的に使われるのではない。つまり，

謝罪の持つ意味が比較的日本より重いと言えよう。これは，日本では謝罪の表現がすべての場面でよく使われているのに対し（場面1.57回，場面2.26回，場面3.37回，場面4.20回），韓国の場合はもっとも依頼の際の負担度が高いと答えた場面3（場面1.1回，場面2.1回，場面3.36回，場面4.3回）にだけ多くあらわれることを見ても分かることである。

5．おわりに

言いわけ表現の使用における日韓男女の特徴をまとめてみると，まず，言いわけ表現の使用頻度においては，日韓両方とも女性の方がより多く使用しているが，その差は日本の方が大きい。日韓全体の使用頻度においては，日本の方がより多く使用していることが分かった。また，言いわけ表現の内容においては，日本の女性は謝罪したり，自分を非難したりするなどの控え目な内容の言いわけ表現を多用しているのに対して，男性は自分から相手に提案したり，貢献することを約束したりするなどの，何かを相手に働きかける内容の言いわけ表現を女性より多く使っていることが分かった。

しかし，韓国の場合は，日本とは対照的に，相手に何かを働きかける提案や貢献などは女性によって多く使われている。さらに，女性は自分の気持ちを表現するなどの積極的な内容の言いわけ表現を使用していることが分かった。

日韓の言いわけ表現の使用を言語文化論的な観点から比較検討してみると，日本はより控え目で，相手のフェイス（尊厳，面子）を侵害しないように，ネガティブなストラテジーを，韓国はよりポジティブなストラテジーを多用していることが分かった。

このように，ある特定の場面における言語行動は文化的コンテクストにより，動的で相対的であることが分かった。こうした異文化の間における対照社会言語学的研究は，異文化間コミュニケーションのギャップを埋める一つの重要な手がかりになると思う。今後は，調査方法や分析方法を広げて，言いわけ表現だけではなく，日韓の依頼行動の全体像を明らかにしていきたい。

注

1) このような依頼の構造の考え方は川成（1993）によるものである。

2) Brown, P. and Levinson, S. (1978) P. 106-215を参照されたい。

3) 杉戸清樹（1983）「待遇表現としての言語行動―「注釈」という視点―」『日本語学』 2－7，明治書院を参照されたい。

4) それほど親しくない人というのは，親疎の度合を最も親しい場合を5とし，最も親しくない場合を1というふうに5段階スケールにおいた時，2ぐらいの親疎関係の人である。

5) 具体的な場面の内容は以下の通りである。

［場面1］ あなたは今学校の教室で，席に座って授業が始まるのを待っています。ノートにメモをしようと思ってボールペンを出して書こうとした時に，あやまってボールペンを床に落としてしまいました。ボールペンはあなたの前に座っている同じ専攻のクラスメートの机の下に落ちていました。あなたはそのボールペンを前の席に座っているクラスメートに拾ってもらおうと思っています。あなたは何と言いますか？

［場面2］ あなたは今学校の教室で授業の予習をしています。教室の中が暑いと思ったので，窓際に座っているクラスメートに窓を開けてくれるように頼もうと思っています。何と言いますか？

［場面3］ 授業で，2人で共同研究をして発表をする課題を与えられ，あなたは同じ専攻のクラスメートのAと組むことになりました。そこで，あなたがクラスメートのAの代わりに今週の金曜日に発表のことで先生に相談に行く約束をしました。ところが，その翌日に別のBという友達から金曜日に映画に誘われ，あなたも是非見たいと思っていた映画で，しかも，金曜日が上映最終日だったのであなたはその友達と映画を見に行く約束をしてしまいました。それで，あなたは先生に相談に行くことができない状況です。そこで，あなたはいっしょに共同研究をするクラスメートのAにあなたの代わりに先生に相談に行ってもらうことにしました。さて，あなたはどのように言いますか？

［場面4］ あなたは今日までに必ず学科事務室に学科セミナー旅行の会費5千円を払わなければなりません。旅行費を払いに学科事務室に行く途中で，財布を忘れて家に置いてきたことに気がつきました。どうすればいいのか分からず，途方に暮れている時に，向こうから同じ専攻のクラスメートがあなたの方へ歩いてきています。あなたは仕方なく，そのクラスメートに5千円を借りることにしました。どのように言ってお金を貸してくれるように頼みますか？

6) 寿岳（1979）は『日本語と女』（岩波新書）で，歌の中で表現されている女性像は男をあらわす表現と比べると大体否定的なものが多いと述べているが，その例として取上げているのが「私はバカだから」，「バカな女」，「私バカみたい」である。本研究において，これらの表現は女性だけに使われているが，これは何を意味するのだろうか。このことは，女性に対する否定的な評価やレッテルを女性が認めようが認めまいが，無意識のうちに女性の思

考に影響を与え，自らが自分を否定的に評価するようになるメカニズムと関係があるのではないかと思われる。

7) 韓国では昔から学問にいそしむ「선비（士人）」を重んじる伝統があり，とにかく何かを学ぶということは何よりも大事にされている。韓国の高い教育熱もこの影響からであろう。韓国の子供は4・5歳の時から塾や講習所などに通うのが一般的である。

8) 川崎晶子 (1990) Sociolinguistics of Speech Act Behavior：「依頼場面のとらえ方と「依頼」遂行に使用される表現」Conference Handbook, English Linguistic Society of Japan. を川成(1993)の前掲論文，p.131-132から再引用する。

[参考文献]

生越まり子(1995)「依頼表現の対照研究—朝鮮語の依頼表現—」『日本語学』14-11，明治書院

柏崎　秀子(1993)「話しかけ行動の談話分析—依頼・要求表現の実際を中心に—」『日本語教育』79号，日本語教育学会

川成　美香(1993)「依頼表現」『日本語学』12-5，明治書院

熊谷　智子(1995)「依頼の仕方—国研岡崎調査のデータから—」『日本語学』14-11，明治書院

寿岳　章子(1979)『日本語と女』，岩波新書

津田　　葵(1989)「社会言語学」柴谷方良・大津由紀雄・津田葵『英語学の関連分野』大修館書店

中田　智子(1990)「発話の特徴記述について—単位としてのmoveと分析の観点—」『日本語学』9-11，明治書院

李　鳳　姫(1990)「上級の日本語教育—韓国人学習者の場合—」『日本語教育』71号，日本語教育学会

Brown, P. and S. C. Levinson (1978) *universals in language usage : Politeness Phenomena. Questions and Politeness*, Cambridge University Press.

本稿は，平成12年度に受けた特別研究助成の成果の一部である。